

---

## 25 <水球陣>東日本リーグ第1戦

### H27.3.8 対慶應大学 @慶應大学日吉プール

慶應 3 4 1 4 計12

東大 2 1 1 3 計7

得点者：浪間(1)、池亀(2)、石田(1)、梶原(1)、山田(2)

東日本リーグ第三戦目、対慶應大学。これまでの二試合の反省から、一ピリ目での失点を減らすためにポジションに変更を行い試合に臨む。競泳陣の方々も試合に駆けつけてきてくれており、まずはこの大会一勝目を挙げたいところだ。

#### 第一ピリオド

センターボールを石田が取り、第一ピリオドが開始される。直後の慶應のオフenseで藤目の反則によりペナルティースローが慶應に与えられる。このピンチをキーパー・疋田の気迫で守り切った東大は、退水のチャンスで2年・石田のシュートが決まりこの大会はじめて先制する。しかし直後のディフェンスで一瞬の隙を突かれて同点とされる。その後は下がり徹底する慶應と、はやめのカバーでカウンターを機能させない東大のディフェンスがそれぞれ上手くはまり、両者無得点のまま時計が進む。均衡を破ったのは慶應大学。オフenseの笛に反応が遅れた東大は、気を付けていたカウンターで失点してしまう。さらにフリースローシュートで追加点を挙げられ差を2点広げられる。その後谷口の退水で招いたピンチは池亀のハンドアップで切り抜け、前線に飛び出した主将・浪間がキーパーをよく見てループシュートを決める。

#### 第二ピリオド

第2ピリオド、慶應に先制を許すも直後のオフenseで右からのパスを2年・梶原がハンツーで決め再び1点差に。しかしその後相手の下がり崩すことができず、逆に山田が回し込まれて失点、さらにカウンターとミドルシュートで2失点しその差は4点に広がった。結局このピリオドはほとんど有効な攻撃をすることができずに終了する。

#### 第三ピリオド

ピリオド開始早々、2対1のカウンターチャンスは梶原が決めきれない。これを皮切りに慶應、東大ともにカウンターの出し合いとなるが両チームのキーパーの活躍などで点が入らない。この流れを断ち切ったのは1年・山田。左でのキーパーとの1対1を決めてピリオドの先制点を取る。流れに乗りたい東大だったが3対2のカウンターで石田が外すなど、追加点を奪えない。再三のカウンターピンチは疋田の好セーブに救われ続けるも、ついに退水で得点を許してしまう。そのまま第3ピリオドが終了し4点差のまま最終ピリオドへ。

#### 第四ピリオド

このピリオドも序盤から疋田の好セーブが連発する。一方のオフェンスは浪間や石田がキーパーとの1対1を決めきれないなど、決定力不足が露呈する。ピリオド中盤、カウンターにより3点を連続で失うと、東大はセットオフェンスで外周から積極的にシュートを狙い始める。2年・池亀のミドルシュートを皮切りに、再び池亀のミドル、さらに山田のミドルも決まり会場を沸かせる。だが反撃が遅かった東大。結局5点差でこの試合を落とした。

作戦通り序盤は相手のカウンターをうまく抑えることができていたが、オフェンスでは終始浪間に下がられて点が入らなかった。最終ピリオドにミドルシュートが入り始めたが、この流れをもっと早くに引き寄せられていればと、悔いの残る試合となった。監督を務めてくださった下東さん、会場で応援してくださった林裕三さん、吉田さん、岩村さん、大野さん、ゆいさん、田丸さん、有吉さん、只野さん、大脇さん、佳奈子さん、そして競泳陣のみなさん、ありがとうございました。

(文責 山田直人)

=====